

平成 19 年度号 No.27 平成 19.5.23 発行
〒275-8511 千葉県習志野市泉町 2-1-37
東邦大学付属東邦中学校・高等学校同窓会
TEL/FAX 047-472-1160
URL <http://www.dosokai.org>
E-mail tohojh_dousokai@yahoo.co.jp

目次

- 同窓会総会開催案内…………… 1
- 会長あいさつ…………… 2
- 学校長あいさつ…………… 3
- 同窓会のこの1年…………… 4
- 特別寄稿…………… 7
- 同窓生のページ…………… 11
- 学校の近況…………… 16
- 平成 19 年度入試結果 …… 18・19
- 新入会員を迎えて…………… 20



題字：創立者 額田 晋先生 書

同窓会総会開催案内

日時 平成十九年六月二十三日(土)
会場 グランドプリンスホテル新高輪
三階

三階

総会開始 十六時

懇親会スタート

十七時から(会場 天平の間)

議案

- ・平成十八年度事業報告
- ・平成十八年度会計報告
- ・平成十九年度事業計画案
- ・平成十九年度予算案

学校の近況報告

- ・東邦中学・高等学校入学をとりまく状況
- ・大学進学状況に関して
- ・その他

※先生方からご説明を頂きます。ご家族同伴の出席可。

懇親会

総会終了後、懇親会を行います。
会費は、正会員五千円、学生会員千円とし平成十九年三月卒業の新会員はご招待とさせていただきます。また、会員同伴のご家族からの会費徴収は致しません。

☆出欠のハガキは六月二十三日(土)必着。
FAXでの回答はご遠慮下さい。

☆電話 ○四七—四七二—一六〇

「総会懇親会」を「卒年度・クラス会形式」

で開催します！

気軽に参加し、懐かしい再会を楽しんでください

中高同窓会長 鮎川 二郎（七期卒・千葉商科大学教授）



同窓生の皆様におかれましては、益々

ご健勝にて全国各地のさまざまな分野で

ご活躍のこととお喜び申し上げます。

同窓会は、母校との協力で連帯の意識を高めながら順調に会務運営を続けています。

母校が第一回卒業生を世に送って以来、今年で五十二年目を迎え、会員総数も一八、五〇名に達しました。因みに現在学生は、全中学生九四三名、全高校生一、一五二名、合計二、〇九五名が将来に胸を膨らませて学園生活を送っています。

□ 近年の母校への主な教育活動支援

同窓会では、平成十四年九月に母校高等学校創立五十周年、中学校創立四十周年の記念事業に際し、教育施設整備費としての寄付金支援の他、東邦教育の理念教書とされる「自然・生命・人間」を復刻製本し、式典参加者をはじめ大学法人関係者、中高全生徒にも謹呈しました。その後は毎年の入学者に無料配布しており、同書

を必読し、感想文をまとめるよう学校長の勧めがなされています。

また、最近、ハンドボール部、スキー部、水泳部、陸上部等、多くの部活で全国大会レベルの活躍が目立ってきていることから、平成十八年に部活動に対する「同窓会アワード」を実施しています。主旨は部活動の活性化に対する大会参加資金援助を目的とするものです。支援の対象は、関東大会以上への出場、支援金は、一部活五万円まで（団体競技は、原則五万円、個人競技は状況に応じて）とし、今後は母校とも協議しながら同アワード対象の拡大発展に努力していきます。

このように、会員皆様とともにある同窓会活動は、会則・第一章・総則・第一条に掲げている通り、会員相互の親睦と向上発展をはかり、かつ母校東邦大学付属東邦中学校・高等学校の発展に寄与することを目的とする、を役員一同常に念頭に置きながら会務運営に努力しています。

□ 本年度の総会開催の主旨

同窓会の存在意義は、申し上げることもなく前述の会則第一条の目的を達成することにありますので、私たち役員の仕事は、会員相互が様々な機会を通して参加・連携のできる可能な限り

の「場づくり」をすることが基本であり、その場を会員相互が共有することが重要であると考えています。その重要な場づくりのひとつが同窓会総会及び懇親会です。

毎年恒例の年次総会は、法人理事長、母校長先生を始め、諸先生をお招きして充実した会として開催しています。今回は法人理事長に新たに就任された伊藤元博先生をはじめ、法人役員の方々もご来賓としてご参加くださる予定です。

これまで年次総会は、同窓会員に学び舎の発展振りをご覧頂きたい主旨で、母校を会場に開催して参りましたが、今年度は会員相互の親睦と向上発展を図るため、特に趣向を凝らして本文表題の形式で行い、参加関係者の参加しやすさと、卒年度やクラス単位での会員の懇親をより深めるための会として計画しています。総会案内紙面の通り、都内の高級ホテルを会場にし、総会及び懇親会内容はもとより、交通の便等の諸条件でも、参加される皆様には満足して頂けるものと確信しています。

今年度の意義深い総会および懇親会の開催にあたり、会員の皆様にはご多忙中、かつご遠方かと存じますが、ご家族お誘いのうえ奮ってご参加くださることを会員・役員一同心よりお待ちしております。

□ ご意見・ご要望をお寄せください

平成九年に新会長に就き、同窓会活動について「旧態依然を改め、新たな方向を目指して革進する」ことを理念として会員・役員とともに会務の企画運営に取り組んでまいりましたが、まだまだ理想の会務運営に到達するにはアイデア、努力の面などに課題が山積していることは否めません。

会員の皆様には、本会報をご覧頂きながら、母校発展と同窓会活動を活性化するに相応しいご意見・ご要望を是非お寄せくださるようお願いいたします。併せて会員皆様方の今後尚一層のご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

母校の現状「建学理念の具現化」の試み

―東邦ブランディングプロジェクトに寄せて―

校長 秋 山 尚 功



き、心から御礼申し上げます。

はじめに

―薫風青葉の候となりました。

鮎川会長様以下
会員の皆様には、
母校の学校運営に
格段のご支援を頂

◇ 今年度の本校入学式は四月十日、午前中
学、午後には高校の二回実施となりました。今春
の入試で、募集定員に対し中学で二学級、高校
で一学級分多く生徒が集まったからです。入学
者選抜については、毎年職員が首都圏の情勢等
を多角的に分析し、歩留まりを予想しますが、
今回はそれを上回る高い歩留まりとなりました。
この要因については分析中ですが、関係方
面の情報等から、ここ数年の進路実績や建学
理念に基づく教育方針等への評価や期待による
ものと思われます。
何れにしても嬉しい誤算と言わねばなりません。
受け入れ上の多少の困難は覚悟の上、教職員全員
で教育推進に取り組んでいるところです。

◇ 次に、学校法人東邦大学全体の取組みとし
ての「東邦ブランディングプロジェクト」につ

いて、私からもご紹介致します。

これは、東邦大学が創立八十周年を機に更なる
発展を期して企画されたものです。その目的
は、学祖額田先生の「自然生命人間」の建学理
念の下、傘下の各機関が各々の組織目標に基づ
く約束価値を広く社会に発信し、その実績が社
会から高く評価されることで法人全体のブラン
ドを高め、選ばれる学校・病院づくりを目指す
ことにあります。その意を内外に示すため、当
法人全体を象徴する「生命の科学で未来をつな
ぐ」のキャッチコピーを定め、各所属機関のメッ
セージを載せたリーフレットを作成し、広く配
布しています。

皆様にもこの趣旨をご承知頂き、各方面で広
報支援にご協力頂ければ幸いです。

◇ さて、本校では、これに先立ち平成十三年
度から、組織目標に「建学理念の具現化」を掲
げ、特色ある私学づくりを検討して来ました。
そして昨年度、校内に建学理念具現化委員会を
設置し、分掌や年齢等を考慮して多彩な職員に
委員を委嘱しました。同委員会は『自然生命人
間』の具体的な活用策について精力的に検討を
重ね、その手始めに同窓会から生徒に寄贈頂い
た同書の手引書を作成し、中学生や高校生にも
読み易いように、鑑賞・思索の視点や英文の注

釈等を掲載しました。
今年度から生徒の学習に活用することとし、
中・高一年生全員に同書所収の六十九項の箴言
を読ませ、自分自身の学業生活の誓いとした
言葉の一つ選ばせるようにしました。東邦学園
に学ぶ生徒諸君が学祖との「問答」を通じて、
自身を高みに導く「心の翼」とすることを念願
するもので、全国的にも珍しい試みと考え、そ
の成果を期待するところです。

むすびに 先日東邦大で医学部推薦入学の卒業
生達が試験準備で図書館に急ぐのに出会った。
高い学志で生き生きと勉学に励む姿を母校教師
は誇りに思うものです。明日への糧を得た思い
で心機一転努力する所存です。
今年度もどうぞよろしくお願い致します。



新緑の中を登校する新入生

同窓会のこの一年

同窓会副会長 渡邊和彦（二〇期生 歯科医院経営）

同窓会活動の一年（平成十八年六月～平成十九年五月）を簡単に報告させていただきます。

平成十八年度同窓会総会・懇親会

平成十八年七月一日午後三時より、母校セミナー館の四階視聴覚大ホールにて平成十八年度同窓会総会が行われました。

総会に先駆け、秋山尚功校長先生、進路指導部長の山岸良二先生から、ご丁寧な学校近況報告を頂きました。

議事は、会報「ならし」の「第二六号」に提示された議案を中心に予定通り進められ、決算報告、事業報告、予算案、事業計画案等、すべて承認されました。（新企画として承認された東邦アウオードにつきましては、項目を設けて説明させていただきます。）

総会の締めとして、恒例の校歌斉唱を北川太郎氏（三十一期生）の指揮で行いました。

総会終了後の懇親会は、例年に比べ新会員の参加が少なく、やや寂しいものになってしまいました。平成十九年度の総会、懇親会により多くの同窓生に参加して頂けるよう執行部一同、努力する所存です。

卒業記念品の贈呈



卒業を祝し、例年通り、「ペン型印鑑」と、「鮎

総会・懇親会



川二郎会長デザインの特製「ペーパーバッグ」を卒業生全員に贈呈しました。（平成十九年三月二日）

臨時会報の発行



昨年度に引き続き、今年度も新入会員に対して、「臨時会報」を作成・配布致しました。会

報には、同窓会組織・規約の説明、高校卒業生への祝詞・激励などを盛り込みました。

(平成十九年三月二日新入会員に配布)

同窓会入会式・母校卒業式



平成十九年三月二日、母校体育館で同窓会入会式が、また、三日に卒業式が行われました。私は両日とも、同窓会を代表して参加させて頂きましたが、今年度の同窓会新会員となる卒業生(三三九名)は明るさとけじめを身につけており、母校の充実と発展を体感させて頂きました。

平成十九年度入学式



平成十九年四月一〇日、母校体育館で中学校・高等学校の入学式が挙行されました。校長先生からのご報告に記述があるかと存じますが、今年度は中学校

が二学級、高校が一学級増となりました。このため入学式は、会場収容人数の関係で、中学校が午前、高校は午後の実施となり、中学校入学式には私、渡邊が、高校入学式には鮎川会長が同窓会を代表して参加し、祝辞を述べさせて頂きました。

高校卒業式



中学校入学式

変なこともあるでしょうが、東邦の社会的信頼がますます高まっていること、これは卒業生にとってとても誇らしいことだと思います。

新入生への「自然・生命」

人間の復刻本」贈呈



東邦中・高への入学を祝し、例年通り、学祖、額田晋先生著「自然・生命・人間」の復刻本を新入生全員に寄贈しました。

(平成十九年四月一〇日)

会報「ならしの」第二十七号発行



(平成十九年五月二十三日)

事務局より

原稿募集

- 同窓会では、次回会報に記載する原稿を募集しております。
- 内容・近況等ご自由に
- 字数・一〇〇〇字程度
- 送付先・習志野市泉町二一―三十七 東邦大学付属東邦中高同窓会事務局
- 次回会報発行予定・平成二十年五月頃

◆同窓会アワードについて



①経緯

同窓会では、かねてより母校支援の一環として、さまざまな分野で活躍した在校生への報奨制度を検討していましたが、「同窓会アワード」と命名し、平成十八年度より実現の運びとなりました。

②報償の対象

差しあたり「部活での全国大会レベルでの活躍に対する資金面での補助」等から実施をしていくことにしています。

③報償の目安・金額

- 一．部活での全国大会出場等
 - ・ 団体種目 ↓ 五万円
 - ・ 個人種目出場 ↓ 三万円
- 二．その他

活躍が顕著と認められる団体、または個人に対して部活に準じて報償する。

④平成十八年度アワード

※大会成績は学校の近況のページに記載

- ・ 中学校スキー部
- ・ 高等学校スキー部
- ・ 高等学校水泳部
- ・ 伊奈川愛菓さん（将棋女流プロ棋士）
- ⑤今後に向けて

母校の先生方のご意見を伺いながら、この制度が母校支援のために適切に活かされるよう検討を進めていく所存です。



スキー部
全日本ジュニア選手権（妙高高原）



水泳部
インターハイ（大阪）



対局風景

◆伊奈川愛菓さんの活躍について



現在高校二年の伊奈川愛菓さんは、平成十八年度前期の将棋女流育成会リーグで優勝。晴れて女流棋士（女流二級）となりました。

十一月には都内で盛大な女流棋士誕生記念パーティーが行われ、同窓会執行部も母校の秋山校長先生とともに招待を受けました。会場には、日本将棋連盟専務理事、西村一義九段を始め、各界の名士が多数臨席。彼女への期待の大きさが伺われるものでした。

学業と将棋の両立は容易なことではないでしょうが、高い志を持って頑張って欲しいものです。



鮎川会長と伊奈川愛菓さん

特別寄稿

国政の矛盾



学校法人東邦大学理事長
伊藤元博

国の施策、法令、方針は何でこんなに矛盾が多いのかと考える日々である。高等教育に関する法令、医療行政、補助金、医師の労働時間、安全管理などなど。

国は今、医療費抑制政策を打ち出し、継続していくつもりだ。一方において医療の安全管理を強く求めている。医療安全には、人員、時間、医療材料、患者との対話など多くの時間と金が必要である。ただでできるものではない。医療費抑制は単に財政上の問題であり、医療安全は患者のためである。収入減になった医療側に補償のない医療安全を求める。しかも高度な医療安全を求める矛盾。ちなみに日本の対GDP比総医療費支出は、〇四年がOECD加盟国三十六位中二十一位である。決して日本の医療費支

出は高くない。要は国が国民の生命、健康を守る施策をどの高さに位置づけるかにある。

医療費の上昇は必然的な原因が殆んどである。皮肉にも医療の進歩もそのひとつである。遺伝子分析、遺伝子診断、遺伝子治療、再生医療などこれからも限り無く進歩続ける医療を実施すれば自ずと医療に金がかかることは誰にも判る。さらに食生活、生活環境、疾病構造の変化、高齢化による合併症の多様化などである。ただ単に数字を追うだけでは永久に医療費の問題は解決できない。

医師の労働時間が話題になっている。法定の労働時間は週四十時間だそうだが、厚生労働省の調査によると、勤務医の労働時間は六三三三時間で、月当たりの残業時間は一〇〇時間である。また夜間当直の翌日は休みにする、休日出勤は代休をとるということだ。これが本当に実現できるなら医師にとってたいへん有難いことだ。安全管理の面でも極めて有効な手段である。だが一寸待ってもらいたい。そのためには医師の増員が求められる。しかし今の皆保険制度でそれだけの人員を増やす余力は病院にはない。従って医師の勤務時間を制限されたなら、殆んどどの病院は従来の診療体系は破壊されるし、救急活動は麻痺状態になる。さらに大きな問題は、皆保険制度の崩壊につながる。いつでも、どこでも、そして高度な医療が低額で受けられるシステムは瓦解する。皆保険制度を維持している大きな要因は、医師の法令の越えた勤務にある。日本の医療は医師の献身と努力によって守られてきたという過言ではない。病気が時間を待たないものである。しかるに最近労働基準監督署が大病院などに時間外、労働時間などのチェックをはじめた。総ての病院がペナルティーを受けることになるであろう。労働

省と合併し、今厚生労働省となったが、元厚生省はこの事態をどう処理するか。

私学助成もまたしかりである。経常費補助には一般補助と特別補助がある。一般補助は使途を特定しないブロック予算で、私学の特徴である建学の精神に基づく個性豊かな教育、研究活動を行うための中核をなす補助金である。一方、特別補助は特定の目的を持ったプロジェクト補助である。メニュー化し、ゾーン制が導入され、性格的には政府の私学に対する政策誘導の感がある。今回の教育基本法の改正で私学の建学精神、理念を原点とした教育、研究の重要性が掲げられていた。まさに矛盾する。私学の自主性を謳うなら、それを維持するのが一般補助であることを忘れないでほしい。

国の政策は、現場を見ず、国民を忘れた机上の空論が多すぎるが如何？

東邦と私

東邦中学校教員 加藤 充
(第三十七期生)

自分が、初めて東邦に来たのは中学の入試当日でした。今から二十二年前の一月二十七日の日曜日、受験番号は七二〇で、受けたのは本館二階の視聴覚室(現大会議室)、試験監督にきた先生まで鮮明に覚えています。当時は入試という事で緊張するよりも、ただ何となく漠然と「いい学校だなあ」と感じ、「絶対ここだ」と思って試験を受けました。自分の学力からす

ると厳しい受験でしたが、縁あって合格しました。

入学してからは、とにかく毎日が楽しく「六年皆勤」を目指して我孫子市の布佐から乗り物酔いをしながらも懸命に通っていました。小学校のころは、運動が苦手でも部活の方もどちらかといえば文化系の人間でしたが、何を血迷ったか一番厳しかったハンドボール部に入部し、部活漬けの毎日でした。学業の成績面ではいいちでしたが、学校に行つて仲間と過ごす毎日が楽しく、また、部活に対する思いは本当に熱いものがありました。この六年間の学園生活で得たもの、学んだものが、今の私のなかで太く背骨のように貫いて存在し、自分のなかで「核」のようになっていきます。

大学時代も教育実習で東邦にお世話になり、生徒と接することによって教員志望の気持ちは絶対的なものになり、「何年かかっても教員になる」という意志を強く持ちました。社会人一、二年目は塾の講師をしていましたが、ここでも不思議な縁があつて、社会人三年目にして東邦の非常勤講師として勤めはじめ、それが八年間続きました。少し時間がかかりましたが、現在常勤講師になつて一カ月近くたちます。自分の人生の半分以上は東邦とともにあり、東邦のことは色々わかつているつもりではありましたが、実際には現在毎日四苦八苦しており、悩んでいます。正直なところ「きついなあ」と思うこともありすが、自分が高まつていく感覚があつて充実感でいっぱい毎日です。本当にやりたかつたことがやれるという喜び、しかも自分が一番望んでいた東邦の教員になれたことから、「今の自分はどんなことでもやれる、やってみせる」という以前なかつた強い気持ち、今はあります。もううけつこういい歳ですが、ま

るで今が青春真っ盛りという感覚です。まだまだこれから悩み苦しむでしょうが、今持つている情熱をいつまでも忘れずに、東邦学園あるいは東邦の生徒のために少しでも貢献出来るように、努めます。

ぜいたくな時間

前東邦高等学校教頭 宮澤 則之

五年前、本校には「十年位はお世話になろう」と私なりの夢と意欲を持つて着任しました。

その理由は、「自然・生命・人間の尊重」を建学の理念とする本校を、私はとても魅力のある素晴らしい学園だと考えたからです。在校生諸君、保護者、教職員、同窓会員の皆様と協力して、本校を全国に誇る知性の学園として発展していくために、少しでもお役に立てればと考えたからです。

しかし、二年ほど前から、個人的な事情として近親者の看護の問題が生じ多忙になりました。それに加え、私自身も体調を崩してしまいました。そのため、志半ばですが、この三月末で退職することになりました。本校の発展のためお役に立てなかつたことを、大変申しわけなく思っております。ところで、今の時代は、スピードが速過ぎて、消化出来ないほどの情報量が押し寄せてきます。「時間」にも常に追い回されてしまいます。退職によつて、私はこのような流れから解放される事になりました。今の私は、「時間」に恵まれ、余裕があります。他

の人に煩わされず、勝手に「時間」を使うことの出来るぜいたくな人間です。

このぜいたくな時間の使い方について近況をお知らせ致します。一つは、体調回復のためのリハビリに励んでいます。一日の半分位は、散歩やスポーツセンターに通っています。残りの半分が読書と書類等の整理の時間です。

二つめは、個人的な事情の対応のため一ヶ月に一度位泊り込みで、妻と遠方に出かけます。三つめは、旅行計画の立案中です。在職中に本や新聞等の記事を読んでメモしておいた場所を妻と探しています。

四つめは、男の料理学校に九月から入学するため案内等を取り寄せ、体験入学を考えています。一日に一食位は、食事を作りたいと思っています。四十二年間弁当を作ってくれた妻への細やかな感謝の気持ちです。

五つめは、地域のボランティア活動に参加したいと考えています。妻の地域活動に協力したいと思っています。

六つめは、新聞等の記事は時間をかけて読んでいます。メモを作り、気ままな計画を立て実行しています。○○公園のチュウリップ△△△△大師のボタン、藤、××園のつつじまつり等は必ず行っています。その他博物館、水族館、映画等です。国語科の堀越先生の東京探見も大変参考にさせていただいております。

「今生きている」この言葉が私は好きです。ぜいたくな時間を使い「仕事人間」であつた自分を解放しています。

最後になりましたが、本校の益々の発展と会員の皆様のご健勝を祈念致します。五年前お世話になりました。本当にありがとうございました。

大槻忠先生を偲ぶ

東邦中学校教頭 柴田耕治

「一期一会」という言葉がこれほど鮮烈に響く人はいない。原級留め置き生徒が校長室で、来年も宜しくお願いしますと挨拶をするような古き良き時代、古老の教師は先生を評して「突貫小僧」と言ったが、当時の私は、先生自身さえ生まれでもない時代の小津映画を知るはずもなく、ただ、常に勇ましく、キリリと前を見つめて、どんどん突き進んで行く先生の若い時代を思うばかりだった。

学年主任や進路部長を歴任された先生の下で、教師としての私は鍛えられた。大槻軍団から排出した多くの先輩教師たちも、次々と本校の重職を担ってきた。ちょうど、進学校として本校が名を挙げていく時代でもあった。「我らは駒である。駒が指令を出してどうする。」「共に遊ばなければ気心は知れない。」等々、端的で刺激的な組織論を打ち出し、数々の大槻語録を生んだ。若い教師たちは、杯を酌み交わしながら、先生を「たぬき」「世間師」と揶揄しながらも、こぞって教育論議をし合った。それは、単にベルエポックとして思い出を語るには惜しい歴史である。

三十代の半ばで大手術をした私が、職場に復帰した折、仕事ばかりではなく海にでも潜ってみたらどうだと言われたのが、先生との私的な出会いの初めだった。私にとっても人生の大きな節目であった。よく働きよく遊び、バランスのよい自然人として暮らす楽しさを知り、先生

の後を追うように、海山川に出かけた。子供時代の冒険心が少しも復活し、忘れていた本来の生命力を取り戻した思いだった。先生は、様々な自然の中で活動しながら、常に教師であり続けた。自然に対する知識の豊富さには周囲がいつも舌を巻いた。

テントを担いで先生と野山を釣り歩き、国内はもとより、インド洋のモルジブからマレーシア、タイ、フィリピン、ミクロネシアの海や島を潜り歩いたのもその頃からだ。私がメキシコへ行くと言えば、フロリダまで行くから寄るよと、ラバスのホテルを訪ねてくれた。カメラを構えてハンマーヘッドの群に近づきすぎて、ガイドが必死で先生を連れ戻したのもこの海だった。セレベス海のシパダン島遠征では、海賊の出現する海は昔話かと思っていたら、ゲリラが島の旅行客をさらったという話を後で聞いて驚いた。フィリピンのバリカサ島では、何日も嵐に閉じこめられ、島のラム酒をすべて飲み干した。そして、先年、オーストラリアのダンク島に滞在した折、次はガラバゴスを潜ろうと約束したが、これは遂に果たすことができなかった。

四年前、先生の退官を祝し、悠々自適に暮らしていたのだと、Back to The Natureと題した祝賀会を開いた。古い時代の卒業生から釣りやダイビングの仲間まで、数多くの人々が集い、海外の海で知り合ったジャズシンガーの亜樹山口ミさんが先生の好きなナンバーを歌ってくれた。その私たちの願い通り、晴れて自由人となったかに見えた先生は、ミクロネシアの隅々まで渡り歩き、アフリカまで足を伸ばして冒険の記録を更新されたのだが、その傍ら、やはり、中学・高校・大学で講師として教鞭を執られてもいた。ハードなスケジュールをものともせず、黙々と自身に課せられた仕事をこな

すのは、先生の職人気質故であったのかも知れない。

何がそれほどまでに皆を先生の下に惹きつけていたのか、その理由を知るには私もまだ若すぎるが、先生と共に過ごした多くの人々が、いつもワクワクとした思いで遠く未来を見つめる目つきをしていたのは確かである。先生の通夜の晩に、葬儀に間に合わなくてすみませんと、ベルリンから電話をくれた写真家の野口里佳さんもその一人だ。品川の原美術館で「飛ぶ夢を見た」のレセプションに先生と私たちを招いてくれた彼女も、先生に自然を学んだ一人だったが、生き生きとした目つきをして、ふわりと世界に羽ばたいた人である。それぞれの一期一会が、生涯教師であった先生には実に似つかわしい。



ネイチャースキーを楽しむ大槻先生 2006. 1

同窓生のページ

近況報告

八期生 渡 辺 妙子
(旧姓 菅谷)

今から五年前、同級生の男性から一本の電話が入りました。「透析をしなければならなくなったのでこの先不安である。皆に是非逢いたい」と。五十八才還暦を迎える寸前でした。数人の人に手伝っていただき住所録のチェック、各クラスの連絡の中心者を決めさせて頂き第一回同窓会を開催したのが平成十四年六月八日でした。お元気な相川先生も御出席して下さいました。

翌年「KANREKI 記念一泊旅行」を企画夜を徹して語り合う楽しいひとときを過ごしました。二回の同窓会をキッカケに手紙や年賀状などの交流が始まり、それぞれの近況報告などの声が届くようになりました。その中で「百才まで共に、と約束していた主人に先立たれました」との便りに猛反省、以来主人を大切にしていること、努力しています。

昨年十一月第三回同窓会を開催、関東近県から、遠くは長崎県より泊まりがけで駆けつけて下さり感激しました。次回の大成功に向けて参加者の皆さんからアンケートもとらせていただきました。

皆さんと接していく中で思うことは何十年の空白があっても同時代に学び、生きてきたことは同じ価値観を共有できるから一気に時間を埋めてしまうことができるということに気づきました。それぞれがいろいろな人生を体験して皆さんとても個性的でした。そして、男性も女性も、年令よりはるかに若く見えることも嬉しいことです。学校では先生から学びましたが、今、同級生からいろいろ学ばせて頂いているような気がします。

還暦を過ぎリタイヤしていく中で、私も第三の人生を歩み始めました。昨年より、二つのボランティアに参加、六十代、健康でいる限り続けていきたいと決意しています。

第八期の皆様、同窓会では、いつも真心のご協力を頂き、大変にありがとうございます。

近況報告

サクセスフル・エイジングを
めざして

二十一期生 塚 越 卓

日本の高齢化率（人口に占める六十五歳以上の割合）は二〇〇五年に二〇%を超え、今後ますます高くなることが予想されています。健康やかに過ごせれば問題はありませんが、医療費に占める高齢者の割合をみると楽観はできません。今年五十一歳になる高齢者予備軍であり、医療関係者でもあるわたしとしては健康に留意し医療費抑制に協力しなければと感じるところ大です。

加齢現象は例外なく訪れますが病気に無縁で心身機能を維持している高齢者も大勢みられます。このような高齢者はサクセスフル・エイジングと呼ばれ、その背景に若い頃からの生活習

慣や生き甲斐づくりなどが関与しているのではと考えられています。一方、わたしは老化など無縁のことと思っていました。ここ数年は新聞を読むときには眼鏡を外し、相手の名前を思い出せず挨拶していることもあります。さらに慢性的な筋・骨格系の痛みをかかえ、足腰の弱体化は加速度的に進行しています。そこで運動不足解消のためスポーツジムの会員になりましたが、トレーニングルームよりもサウナで過ごす時間のほうが長くなり挫折してしまいました。自宅でもトレーニングするために購入した腹筋台も粗大ゴミとなり我が家を去り、家族の総意で購入したステッパーもほこりをかぶっています。いずれも費用対効果を評価するまえに頓挫してしまいました。最近はおデオボーイに興味を持ちパソコン画面の購入ボタンをクリックすべきか悩んでいる今日この頃です。

いろいろ試しては頓挫していますが、小学二年よりはじめた剣道は長続きしています。大学卒業後十年以上のブランクはありましたが三代後半より再開しています。先日、大阪で開催された医師剣道大会に参加してきました。本来は四年毎に開催される日本医学会総会の交歓行事として行われていたのですが、高齢の部（七十歳以上）の参加者から四年後には生存していないとの意見が多く毎年開催となりました。ところが生存していないはずの諸先生が毎年参加してきます。適度な稽古と大会への参加が生き甲斐となり健康維持につながっているのですね。わたしも先輩を見習い食事、睡眠と同様に生活習慣の一環としてストレスなく修行しなければと感じて帰ってきたところでした。

みなさんも医療費抑制に貢献するためにサクセスフル・エイジングを目指しライフスタイルを見直してはいかがでしょうか。

私の東邦高校よもやま話

二十六期生 内 田 博 之

(一) 修学旅行は高校生初の船旅だった。

私には豪華客船での修学旅行が印象深い。集場所の千葉港に行くとき、タクシーに「ちばこう」と告げたところ、千葉高校に着いたこと。船酔いで陸が恋しかったこと。夜は先生方も船酔いしていたこと。普段馴染みのない料理を食べたこと。学友と夜通し話をしたこと。夜のデッキはカッブルだらけであったこと。などなど。

(二) 先生は予習をされていた。

私が職員室を訪れたとき、O先生はお手製のノートを見てぶつぶつ言いながら次の授業の時間配分をしている様子であった。覗いたノートには「ここがポイント」、「説明は長めに」、「ここは宿題」などカラフルなコメントが多々あった。当時の私には「先生は経験が豊富なので予習の必要はない」との思い込みがあったため、「先生も勉強されているのか」と新鮮であった。続いて、「そのノートを見せてください。」、「生意気言うな。」の展開となり、私のひそかな成績アップは夢となった。

(三) 東邦高校はやはり進学校だった。

三年間の教科を前倒して終了させ、三年生は希望進学コース別にクラス編成する教育環境であった。今から思うとずいぶんと徹底していたものだと感じる。私は理系コースに在籍したので日本史は受験対象になく、ご担当のA先生の方が割り切っておられ、「授業は一人で喋るの、皆さんは各自の勉強時間に充てなさい。」との指導であった。私は好きな教科であったのでノートを取り、質問をするなど反発を繰り返す生徒であり、しまいには補習プリントを配布くださった。その後、私は工業大学に進学し、

電機製造業に就職したので、日本史を仕事に役立てる機会には恵まれていないが、今でも好きな教科である。

(四) 当たり前がようやく判ってきた。

W先生から「あいさつをする。感謝をする。約束は守る。」と、小学生から言われてきたことを改めて(脱線)講義いただいた。当時は「何を当たり前のことを今さら……」と思っていたが、卒業後は誰からも忠告されることもなく過ごし、社会生活を営む今でも守られていないことがあることに気付かされる。言行一致の大切さと難しさが今頃判ってきたと自省する次第である。また、自分の子供に同じことを言っていることには苦笑せざるを得ない。

最後になりましたが、母校の今後のますますのご発展と、みなさま方のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

娘とわたしは東邦の卒業生

二十一期生 尾 崎 秀 子
(旧姓 竹澤)

長女・汐里が東邦中学・高校と六年間を過ごし、今春卒業いたしました。汐里は沢山の友人、温かい先生に恵まれ、クラブ活動、運動会等いろいろな行事に積極的に参加していたようです。特に高三の文化祭では、有志の一日だけの合唱団のリーダーを務め、素晴らしいハーモニーと歌声を聞かせてくれた時、六年間の子供達の成長に感謝し、東邦中高での教育の確かさを実感し涙しました。

わたしは、昭和四十七年に東邦高校に入学いたしました。当時の高校は、現在の東邦大学の校舎奥の校庭側に、木造平屋(兵舎、馬小屋)の校舎が横に長く繋がっていました。どんぐり

の木の並木があり自然に囲まれた環境の良いところでした。自由な校風と、一人一人の個性を尊重し見てくださる先生の指導は、的確で温かいものでした。わたしはその後、東邦大学薬学部に進み、現在も薬剤師として仕事をしております。

近況としましては、二十四歳の長男を頭に四人の子供に恵まれました。二十年前には保険調剤薬局を基盤とする会社を創設し、関東地区に二十店舗、百八十人のスタッフを抱えるまでになりました。今年四月一日には東邦大学の客員教授に任命され、医療の現場から薬学教育の発展の一助となるべく、誠心誠意努力していく所存です。

今回の投稿のお話は、わたしの高校一年生の担任 泉B先生からいただきました。当時の泉B先生はまだお若く、活動的でいつも輝いており、生徒であるわたくしたちの憧れでした。先生のご自宅に何人かの友人と泊りに行き、夜通し話しをしたり、先生の赤ちゃんの誕生を皆で喜んだり、思い出深い日々を過ごしました。そして、三十年後、汐里がまた泉B先生(現在は泉P先生と呼ばれているそうです)に大変お世話になりました。三十年ぶりに先生にお会いした時、顔を見るなりわたしの名前を言ってくださいました。このお話を頂いてから、三十年前にタイムスリップしたかのごとく、忘れかけていた思い出が走馬灯のようにぼろぼろと浮かんできました。懐かしいやら恥ずかしいやら……。

汐里もお蔭様で、東邦大学薬学部に入學し、わたしの後に続いてくれるようです。親子共々、たいへんお世話になりました。

東邦大学付属東邦中学校、東邦高校の更なるご繁栄と先生方のご健勝を心よりご祈念いたします。

大らかに、大らかに

二十六期生 根岸良之

東邦中学・高等学校同窓生の皆さん、今日は、昭和五十五年三月卒業の根岸良之と申します。

昨春秋に一部の有志がメーリングリスト（ML）を立上げてくれたおかげで、私達、昭和五十五年三月卒業の同窓生相互の交流が劇的に復活し、私も二十年ぶりに多くの友人達と再会することが出来ました。

二十年以上の時間が経過して、みんなそれなりの社会人になっていきますので、最初は「○○さん。今は何をなさっているのですか……」と会話もぎこちないのですが、一時間も昔話に花が咲くと、男性も女性もお互い昔のように苗字呼び捨ての間柄にすっかり戻ります。多くの友人達と再会して思うことは、外見はともかく（？）、中身（性格）は、ホントみんな変わっていないということ。お互い社会的な利害関係の無い付き合いですので、私を含め、みんな素直に自分を出すことができます。その時見えてくる人となりは、みんな中学・高校時代のまんまです。（笑）。友人達との再会を通じて、東邦高校の三年間（付属生は六年間）は、良くも悪くも私達の原点であったことを改めて痛感しています。

私達の原点である東邦の校風で、当時私がとても好ましく、また誇りに思っていたことは、みんながお互いの個性を尊重していたということです。学校は入学試験（＝学力）のフィルターを通して集まった人間の集合体ですから、いろいろな個性の人間が集ります。その時に、自分と合う人・合わない人と言うのは当然出てきますが、東邦のみんなは、お互いの個性を「大らかに」に受け止めていたような気がします。（もっ

とも「大らか」過ぎて、私を含め私の友人の多くは浪人を余儀なくされましたが……笑）

数年前に自分の子供が中学受験をする年頃となった関係で、東邦の入試難易度がとても高くなっていくことを知り、そのことを非常に驚き、また誇らしく思いました。私達の頃よりも、ずっと優秀な生徒さん達が集る学校にはなりませんが、今でも私達の頃の大らかな雰囲気は受け継がれているのでしょうか？

学校を終えた後に待ち受ける社会は、大らかさと対極にある「効率」が最優先される世界です。後輩の皆さんもせめて社会に出て行く前の学校生活の時くらい、大らかな気持ちで過ごしていただけたらと思います。

最後になりましたが、東邦大学付属東邦中学・高等学校及び同窓会のみますの発展を心より祈念いたします。

好奇心と挑戦

三十五期生 横田大輔

幼い頃から落ち着きがなかったのだとは思いますが、妻にも日常的にその傾向を指摘されている。自分としては、それは忍耐力の欠如ではなく、好奇心が旺盛なだけだと信じている。中学・高校の多感な時期に、自由な考え方を許容してくれた東邦学園で過ごせたことも、好奇心の醸成に寄与したはずだ。以下に記す転職人生でも、この好奇心がいつも新たな挑戦を生み出している。

東邦高校を卒業して大学・大学院にて電子通信学を専攻した後に、最初に入社したのは典型的な日本企業の電機メーカーであった。一般的なビジネススマナーに加え、海岸清掃やグループ登山などの異色なメニューを含む研修から始ま

り、社会貢献の意識や組織として動くことの意義など、以降の社会人生活においても重要となる基礎をみっちり仕込まれた。スタートとしては良かった。

その後、日本から世界に向けて視野を広げたいという好奇心が芽生えた私は、外資系の通信機器メーカーに転職した。海外出張と言えば、前職ではそれなりの役職に就いた人の特権のような側面があったが、ここでは外資系の風土に加え、寛容な上司に恵まれたこともあり、若かった自分にも挑戦の機会が与えられた。入社早々に海外出張を命ぜられ、緊張のあまり出発前夜はほとんど眠れなかったことが今でも妻との間での笑い話になっている。以降は頻繁な海外出張や夜中の電話会議に追われるなど苦勞も多かったが、技術力や国際的な視野の強化という点では、確実に好奇心も満たされ、ステップアップも図れた。

通信機器を作る側から、それを買って通信サービスを提供する側に経験を広げたいという新たな好奇心が芽生えた私は、現在の勤務先である通信事業者に転職した。物を買ってもらうというそれまでの立場から見ると、物を買う立場は優雅なものに見えていたが、世の中そんなに甘いものではなく、なるほどそれぞれの立場でそれ相応の苦勞があるものだ、ということも今も日々実感している。当初の好奇心は満たされつつあるが、まだまだ鍛錬が必要だ。

今後も好奇心を新たな挑戦につなげていきたいが、環境の変化や気張りには心身の疲勞が伴うのも確かである。そんな時にどういうわけか、同窓会などで中学・高校時代の仲間に出会うとホッとできるのは、気を張った自分を忘れ信頼できる仲間に対してかつての自分をさらけ出すことができるからであろうか。きっと皆も同じ

ような気持ちになったことがあるに違いない。今後も恩師や旧友とのつながりを大切にしていきたいと考えている。

私の近況報告など

三十七期生 馬場和佳

一 私は、平成四年三月に高等学校を卒業し、一年間の浪人生活を送った後、平成五年四月に中央大学法学部法律学科に進学し、平成九年三月に卒業しました。

その後、私は、同年十月に旧司法試験に合格し、平成十年四月より二年間の司法修習を受けた後、平成十二年四月より第二東京弁護士会に登録して東京都港区の法律事務所で弁護士をしています。

私が働いているのは小規模な法律事務所で、主として顧問先企業から寄せられる法律相談・訴訟事件などを取り扱っているほか、一般的な民事・刑事事件も取り扱っています。その中でも比較的取扱件数が多いのは、都市再開発法に基づく市街地再開発事業や、区分所有法・マンション建替え円滑化法に基づくマンション建替事業に関する案件で、何とかそれなりに忙しい毎日を送っています。

法曹界も激動の時代ですが、私の今後の生活は同窓生の皆さんに依存しておりますので、ひとつよろしくお願いいたします。

二 それは冗談としても、私が高校時代に築いた恩師や友人たちとの人間関係は、私にとっても大変貴重な財産です。

私の高校二・三年生のときの担任は現在も高等部で教鞭を取っておられる芦野眞理子先生でした。私は、成績・生活態度の両面において中程度という感じの生徒でしたし、誰から見ても

特に目立つ生徒ではなかったと思いますが、高校生活を過ごす中で、私は芦野先生の教師としてのというより人間としてのユーモアのセンスと大らかさ、生徒に対する姿勢の真剣さに心酔するようになりました。そのため、卒業後、現在までしばしば尊敬と親しみを込めて近況をご報告させていただいたりしております。

また、当時親しかった友人たちとは今でも交際が継続しており、年に数回は昔に戻って酒を飲みながら近況を報告しあったりなどして楽しい時間を過ごしています。

わが母校の傾向なのか、私のように社会科学系の職業に就いた友人が比較的少ないのですが、友人たちは皆幅広い分野において活躍しており、わが母校の地力を感じさせます。皆付き合っていて気持ちのいい男ばかりで、彼らと過ごす時間は完全に仕事を離れたストレス解消にもなっています。

三 今思い返すと、高校生時代にもっといろいろなことをやっておけばよかったと思うこともありますが、もし今の私が高校生に戻っても、結局大差ない高校生活を送るような気がします。そう思うと、私の高校生活もそれなりに充実していたものと思います。

私の近況報告

三十九期生 笹澤 匠

私は現在、福島県の工業高校で数学の教師をしています。学生時代から教員を目指していましたが、数年前に母校で教育実習を終了してから夢に向かってまっすぐに進んでいくところですが、まだまだ未熟ですが日々生徒たちからいろいろな事を学び、充実した毎日を送っています。

私は「外部生」です。現在もこの言葉が使われているかどうかわかりませんが、ある程度人間関係ができている集団の中に外から入り込んだので慣れるまでに少し時間がかかりました。中学校では野球部に所属し毎日練習をしていましたが、高校に入学してからは、勉強についていけるかなどのいろいろな不安の中学生活だったので、野球部に入学したもののうまくなじめずすぐに辞めてしまいました。しかし学校に慣れてくると、勉強だけの生活では何か物足りないと感じるようになりました。ある日、そのような気持ちを担任の岡田先生に見抜かれ、バレー部に入部を勧められました。三年生が引退した直後の六月下旬に入部したのですが、亀井先生の指導のもと良き先輩、友人に恵まれ楽しく高校生活を送ることができました。また、一つのこと集中するという経験ができましたので、その後の大学受験や教員採用試験にもいい影響をもたらしたのだと思います。

人生では「出会い」というものが、ものすごく重要な部分を占めていると思います。私も先生方や先輩・友人・後輩達、そしてバレーボールに出会わなければ、現在の自分ではなかったと思います。また今後も、教員としていろいろな生徒と出会い、バレーボールを通じて共感的理解を深めながら、お互いに成長できれば幸せだと思います。

私の勤務する工業高校は、生徒の八〇%以上が就職を希望し、この就職難の時期においても就職率一〇〇%を実現しています。私の育ってきた環境とはまったく異なりませんが、皆それぞれの夢に向かって努力しています。

携帯電話の普及により、学生の雰囲気がいぶ変わりましたが、高校でしか経験できないことの大切さを生徒たちに伝えながら、いろいろ

な場面で手助けができるよう今後も努力していきたいと思えます。

高校時代の思い出と 保護者として

八期生 山口 巖

卒業してはや四十五年。東邦高校第八期生である私は同高校に息子(次男)を通わせる親となりました。成田高附属中学校に通いながらクラブチーム(成田シニア)に在籍し甲子園を目指す野球少年でしたが中学三年になったとき東邦高校を受験したいと告げられた時は親として自分の母校に入学してくればこんなに嬉しいことは有りませんでした。

三年前、還暦を迎えた時に、第八期卒業生の同窓旅行会を催しました。四十二年振りの再会です。面影は有るが……名前が出てきません。懐かしい旧友は皆良き父親、母親やお爺さん、お婆さんになっていました。いつの間にか皆の気持ちは高校時代にタイムスリップしていったようで「実は君のことが好きだっただよ」「うそ私も貴方が好きだったのよ」こんな会話も飛び出していました。

現在の校舎は場所も変わり鉄筋四階建ての立派な校舎ですが我々が通っていた頃の校舎は木造平屋建ての兵舎を改造した校舎でした。個性的な教師陣は老練の達人ばかりで受験勉強の指導より人間形成に情熱を注いでくれました。しかしながら学業においても大学の附属ということで医学部、薬学部に進学される方は真面目に勉強しての方が多かった様に思われる。我々八期生は生徒数(五クラス)が少なかつたので皆友達になり楽しい高校時代をおくりました。

後輩が頑張ったお陰で、今では千葉県内にお

いて上位三校にはいる学校になったと聞きま

二〇〇三年度卒業生 学年同窓会報告

四十九期生 鶴田 絹

二〇〇三年卒業生学年同窓会が平成十八年十月七日に開催され約一三〇人の卒業生が集まりました。この学年は来年度新社会人になるものが多くおり、来春社会に旅立っていきます。その前に三年ないし六年同じ教室で学んだ仲間と東邦の思い出を振り返り旧交を温めたい、という思いから今回の企画は立ち上がりました。

一次会では長島先生、古川先生、大塚先生、小村先生が参加してくださいました。在校当時のような温かい言葉をかけてくださいました。又、当日参加できなかった内藤先生、立花先生、海老原先生など多くの先生方からメッセージを頂きました。飛び入りでコントや近況報告をしてくれる卒業生もいて、まるで高校時代に戻ったかのような雰囲気会場を包みました。そして高問先生との思い出や最近の東邦の変化や今年の教育実習生の写真を載せたスライドで始めて一次会は終了しました。

二次会では軽食を取りながらの歓談を皆楽しんでいました。会場は私達が通学していたころにはまだ建てられていなかったセミナー館のカフェテリアです。景品が高額でなくても盛り上がるのは学生の特権でしょうか? 同窓会スタッフがたくさん勝ってしまう珍事も起こりつつゲーム大会も開かれました。優勝した今井君

おめでとうございました。

この会により私は東邦が自分の原点であるとの思いを再確認しました。これから先社会に出たら荒波にもまれ、辛い事くじけそうな事、たくさんあると思います。ですが、東邦の思い出とその仲間との絆があればどこでもやっていける。そう思うのです。「仲の良い学年でなによりです」そう言ってくださった石戸先生の言葉の通りこの仲を大切に末永く保っていかけるように頑張っていきたいです。

最後になりますが開催に多大な助力をくださった御喜先生、大塚先生、又連絡・参加してくださった先生方、卒業生の皆様に厚くお礼申し上げます。どうもありがとうございました

仲間たちのこと 〜反省と感謝と〜

三十期生 宝田 太郎

東邦の同級生には剣道部という名の下に中高六年間、あまりに濃厚なつきあい方をしてきたがために今だに切っても切れない縁の仲間たちがいる。

中学生の頃は、東邦剣道部OBで当時体育の非常勤講師をされていた嶋田弘毅先生や先輩方の愛のムチをうけ、皆、面の中で涙を流しながら稽古したこともしばしばであった。高校生の頃は、期末テストを終えるたびに船橋市芝山の泉先生宅へ押しかけては皆でバカ騒ぎをしたことも楽しい思い出である。当時は女子生徒から「K君あんなにいつもいっしょにいられてうらやましい」とか「男同士なのに仲が良すぎて気持ちが悪い」と言われたことが、変に自慢であったりした。とにかくからかいからかわれ、時にケンカもし、時に好きな女の子を白状し合

いながら長い時間を共有していたのである。先のK君こと興柁精孝は、現在本業の歯科医の傍ら四十歳の時早くも剣道六段を取得し、剣友会の会長としてまた葛飾区剣道連盟の理事として、地域の青少年の健全なる育成に多大な貢献をしている。私も小学校四年生になる長男と時々出かけて行つては稽古に参加させてもらうが、彼と肩を並べて子供たち相手に汗を流すが、実は今剣道して一音楽しく思えるときである。

竹下敦君は今年二月、十七歳年下のまるでモデルのような、ルーマニヤ人の女性と華燭の典を挙げた。歯科医院三軒を経営する医療法人の理事長として多忙な日々を送っている。

中島正巳君は米国留学を経て、日大板橋病院眼科で講師として臨床、研究、教育の各分野において重責を担い、特に角膜の疾患に関する最先端の研究で全国に名を馳せている。

二塚晃一君と藤本拓丙君はそれぞれ心優しい良妻を得て、円満な家庭を持ち行員としての確固たる地位を築いている。

私は自己中心的な性格と粗暴な言動で、今までに他の大切な友達や先輩後輩を何人か失ってしまったことを省みると、彼ら仲間たちが私に對しひたすら寛容でいてくれていることに心から感謝しなければいけないと今、思っている。

この原稿を書かせていただいた事で、改めて自己の反省と彼らへの感謝の機会を与えられた気がしてならない。

この取り留めない拙文を、我々のこれからも変わることはない友情の礎となつてくださり、約三十年間に渡り育て見守つてくださっている恩師、泉東作先生靖江先生ご夫妻に心からの謝意と共に捧げます

建築家という仕事

四十一期生 中川潤 一

「中川君っていつも楽しそうね！」とよく言われます。失恋直後にも言われたことあります。友人が言うには、「新しい出会いにウキウキしてそう！」なんだそうです。(実際はそんなことはないです。)僕が楽しいのは、建築設計という創造活動のおかげです。今でも東邦の同級生たちとはよく会っていて、飲みに行ったり、温泉に行ったりするのですが、建築設計のクライアアントにもなっています。今春竣工したHouseという住宅や、歯科医院のプロジェクトのクライアアントも同級生です。(詳しくはWebで。中川潤一建築設計事務所 www.naiu.jp)

僕は建築家として、いつも自由な発想で設計したいと考えています。例えば、お風呂を設計する時には、「風呂呂に入るとはどういうことか?」そもそも風呂呂とは何か?と、かなり原始的なところから始めます。そうすると、どんどん建築は自由なものになっていきます。団地のリフォームで浴室がとて狭かったときには、狭くても最高の場所をとということで、木曾ヒノキの樽の浴槽にしました。とても狭いですが、目を閉じれば分かりませんし、ヒノキの良い香りに包まれてお湯につかっていると、瞑想しているみたいで気持ちいいです。「団地にヒノキ風呂?!」なんて言われますが、固定観念にとらわれてしまったら、自分たちが本当に欲しい空間を手に入れられません。

こんな僕の基盤を作ってくれたのは東邦時代の六年です。部活は剣道部に入り、泉先生夫妻の元で、中高と主将をさせていただきました。東邦

の良いところの一つは部活を通じて、中学一年生の時に高校三年生やOBの大学生や社会人の方と出会えることです。

先輩方からは、剣道だけでなく、おいしいご飯屋さんとか、ギターの弾き方、デートの仕方、それと受験のコツも教えていただきました。

それは、「中学の時は英語と数学だけやって、高校に入ってから本格的に勉強を始めればいよ。あとな、高一と高二の時になるべくやっておけ。高三になれば猫も杓子も勉強するんだから。」という風に。僕は一浪をして、京都大学工学部の建築学科に進学しました。今思えば、受験勉強のために部活を辞めたりしなくて良かったなあとと思います。極端なことを言えば、受験勉強はいつでも出来ますから。

先日、東邦剣道部の泉先生よりご自宅のリフォームを依頼いただき、画家である息子様のアトリエなどを設計しています。現在、設計事務所の仕事の半分くらいは東邦関係者の仕事です。僕みたいな若い建築家に仕事を任せてくださる東邦の同級生や恩師の泉先生に心より感謝しています。これからも東邦の仲間たちと一緒に自由な建築を作っていけたらと思います。

東邦高校同窓会の呼称の募集

同窓会の呼称を募集します。採用のあかつきには同窓会より相応の謝礼をさせていただきます。

送付先 東邦高校同窓会事務局

学 校 の 近 況

一、在籍数（平成十九年四月現在）

《中 学》

	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	計
男子	230 名	199 名	165 名	594 名
女子	141 名	94 名	114 名	349 名
合計	371 名	293 名	279 名	943 名
学級数	9	7	7	23

《高 校》

	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	計
男子	278 名	235 名	196 名	709 名
女子	158 名	136 名	149 名	443 名
合計	436 名	371 名	345 名	1152 名
学級数	11	9	9	29

二、平成十九年度 主な学校行事の日程

体育祭（中学） 九月二十九日（土）
 九時から一般公開します。
（高校） 六月七日（木）
 終了しました。

文化祭「银杏祭」（中高合同）
 九月十五日（土）・九月十六日（日）
 一般公開は土曜が十二時から、
 日曜は九時からです。

入学試験

中学校

前期……………平成二十年一月二十一日

後期……………平成二十年二月三日

高校

前期選抜……………平成二十年一月十七日

後期選抜……………平成二十年一月二十八日

三、部活動の活躍

（平成十八年四月～十九年三月）

中 学

- ハンドボール部 県総体出場
県一年生大会 三位
- 硬式テニス部 県大会 男子ダブルス五位
関東大会 男子ダブルス出場
県総体 女子団体戦出場
女子個人選出場
- 剣道部 県通信大会 男子400m出場
女子100m出場
- 陸上部 県総体 男子100mバタフライ出場
男子100m平泳ぎ出場
男子100m自由形出場
女子100m自由形出場
- 卓球部 県春季大会 団体戦出場
県総体 ダブルス出場
県新人戦 団体戦出場
個人戦出場
- スキー部 全日本ジュニア選手権大会
クロスカントリー
男子個人戦出場
全国中学校スキー大会アルペン

高 校

- 水泳部 県総体
クロスカントリー
男子回転出場
男子個人戦出場
女子個人戦出場
男子リレー出場
個人種目 入賞者多数
リレー種目
- 美術部 全国学生美術展
中学生の部台紙作品推奨
定期演奏会
- オーケストラ部
- 硬式テニス部 県総体 男子団体戦出場
県新人戦 男子ダブルスベスト8
ベスト16
女子ダブルス出場
- バスケットボール部 県総体
県新人戦
- ハンドボール部 県総体 男子出場
男子ベスト4
女子ベスト4
女子ベスト4
- 陸上部 県総体 個人種目出場3名
男子4×400mリレー出場
男子4×100mリレー出場
女子4×100mリレー出場
個人種目出場2名
男子4×400mリレー出場
男子総合6位
個人種目入賞者多数
個人種目入賞者多数
関東大会出場
- 水泳部 県新人戦 個人種目入賞者多数
個人種目入賞者多数
- 剣道部 インターハイ 男子団体戦出場
県総体 男子団体戦出場
女子団体戦出場
県総体 シングルス出場
ダブルス出場
- 卓球部 インターハイクロスカントリー
男子個人戦出場
男子リレー出場
- スキー部



右端が高校女子新制服

平成十九年度の高校新入生から、女子制服が改定されました。

四、高校女子制服の改定について

●吹奏楽部 ●美術部

- 国体クロスカントリー
男子個人戦出場
- 全日本高校選抜クロスカントリー
男子個人戦出場
- 全日本ジュニア選手権クロスカントリー
男子個人戦出場
男子団体戦出場
女子団体戦出場
- 県総体
男子個人戦出場
女子個人戦出場
女子個人戦出場
- 県新人戦
男子個人戦出場
女子個人戦出場
- 県弓道遠的大会
女子個人6位
- 県吹奏楽コンクール本選出場
- 全国学生美術展 入選

五、先生方の異動

平成十九年三月、高校教頭の宮澤則之先生、矢吹重憲先生（公民科政経担当）、佐藤昭先生（芸術科音楽担当）、山本卯一郎先生（英語科）、大木紀子先生（家庭科）が東邦中・高校をご退職になりました。

宮澤先生は平成十四年四月、高校教頭として着任。長く県立高校の管理職を務められた経験に基づき、東邦高校の舵取りに手腕を発揮されました。宮澤先生には、ご退職の先生方を代表して玉稿を寄せて頂きました（特別寄稿のページをご覧ください。）

矢吹先生は昭和五十四年四月に着任。バイタリティと繊細さを兼ね備えた熱血先生でした。ご退職後は故郷の福島で、釣りと読書三昧の生活を楽しむ計画とのことでした。

佐藤先生は昭和四十四年に着任。吹奏楽部の栄光を築き上げられました。先生ご自慢の奥様は東邦高校十八期生。今後は夫婦水入らず、南国沖縄で第二の人生をお楽しみになります。

山本卯一郎先生は昭和四十九年に着任。昨年度ご退職になった下遠野先生とともに母校教諭の草分け的存在でした。同窓会活動の発展にも長い間ご尽力頂きました。

大木紀子先生は、昭和四十六年に着任。優しいお人柄で多くの生徒に慕われてきました。食品部門の指導を一手に引き受けて、文化祭を支えてくださったことを私たちは決して忘れないでしょう。

◆ご計報

大槻忠先生が平成十九年一月二十三日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

学校説明会・学校見学会

中学

学校説明会 ①十月二十二日（月）
②十月二十三日（火）

- ・ 両日とも十四時～十五時半
- ・ 於 第一体育館アリーナ
- ・ 予約、上履きともに不要です。
- ・ 個別の学校見学
- ・ 原則として土曜日の十時に本館ホールに集合
- ・ 要電話予約 上履き不要

高校

学校説明会 十月二十七日（土）

- ① 十時～十一時半
- ② 十四時～十五時半
- ・ 於 セミナー館視聴覚大ホール
- ・ 要電話予約 上履き不要
- 学校見学会 ①七月二十八日（土）
②八月二十五日（土）
③十一月二十四日（土）
- ・ いずれも十時～十一時半
- ・ 要電話予約 上履き不要

※TEL 047-472-8191

平成十九年度 入試 結果

進路指導部長 山岸 良二

今年も躍進 医歯薬理系の東邦
 医学部 四十四名 薬学部 九十八名

新課程元年入試で注目された前年度と比較して大幅に大学入試センター試験が難化した本年度、中でも数学・理科で平均点下落が全体的に難関大学への合格が厳しくなる状況となりました。そのような中、本校では三年連続で伸ばしてきた大学合格実績を今年も堅調に維持することが出来ました。

本年度卒業生数は昨年度と比べて約四十名少ない三三九名でしたが、合格分野ごとでは医学部四十四名(国公立一六名、現役二八名)、薬学部九十八名(現役七五名)、歯学部八名(現役五名)、獣医学部二名(現役五名)と巷間広く評されている「医歯薬系の東邦」の名前に恥じない実績を今年も示すこととなりました。

中でも千葉大医学部に現役で四名、筑波大医学部に過年度生二名というセンター試験の逆風にも耐えて頑張った生徒諸君の努力がみられました。さらに、今年の特徴は昨年度「薬学部六年制」開始

大学名	合格			学部名	合格			進学
	現	浪	計		現	浪	現	
聖マリアンナ医科大学	1	1	1	医	1			
東洋美和女学院	1	1	1	人間科学	1	1	1	
フェリス女学院	1	1	1	音楽	1	1	1	
横浜薬科	1	1	2	薬	1	1	1	
北陸	1	1	1	薬	1			
諏訪東京理科	1	1	1	システム工学	1			
同志社	1	5	6	神	1			
				文化情報	1			
				政策	2		1	
				社会	1			
立命館	7	7	14	工	1			
				文	3			
				法	3			
				政策科学	3		3	
龍谷	1	1	1	情報理工	1			
				理工	4			
私立大計	669	278	947		669	278	162	64

【その他】

学校名	合格			学部名	合格			進学
	現	浪	計		現	浪	現	
防衛医科	1	1	1		1			
航空保安	1	1	1		1			
国学院短	1	1	1		1	1	1	
青山学院女子短期	1	1	1		1			
女子美大短大	1	1	1		1			
神田外語学院	1	1	1		1	1	1	
大原簿記	1	1	1		1	1	1	
ノーステキサス	1	1	1		1	1	1	
その他計	7	1	8		7	1	4	0

総計	737	326	1063		737	326	223	106
----	-----	-----	------	--	-----	-----	-----	-----

ということで敬遠傾向の見られた薬学部人気が大きく復活したことです。東邦大薬学部にも最終的には二十二名合格しましたし、本年度慶応義塾大学との合併で注目された共立薬科大には四十倍を越す驚異的な高倍率ながら十一名が合格しました。その結果、薬学部総計九十八名とここ五年間では第三位に入る高い合格者数となりました。

一方、大学別でも東大五名(県内四位、昨年度七名)、東工大七名(県内二位、同九名)、一橋大三名(県内三位、同二名)、千葉大三〇名(県内五位、私立でトップ、同二六名)、東京理科大一四五名(県内全高校トップ、同四三三名)、早稲田大六四名(同九三名)、慶応義塾大四八名(同四一名)、上智大二八名(同三七名)、明治大七二名(同五六名)、立教大四八名(同五七名)、法政大五九名(同一九名)と主要難関大学でも着実な実績をあげることができました。

この背景には、コツコツ着実に積み上げていくタイプの生徒諸君が多かったこと、高校一年時から自分の志望に対して確固たる信念をもつ指導を受けてセンターでの結果に右顧左眄しなかったこと、そして何よりも学年団が主任を先頭に生徒の面倒を細かく見ていた証左と分析されています。今後卒業生各位のご支援・ご協力をよろしく願っています。

主要大学合格者数

【国公立大学】

大学名	16年度			17年度			18年度			19年度		
	現役	浪人	合計									
東京	3	1	4	3	1	4	5	2	7	2	3	5
京都		2	2	2	1	3	1		1		2	2
東京工業	6	3	9	3	5	8	6	3	9	6	1	7
一橋	3		3	2	1	3	2		2	1	2	3
旧帝大	3	6	9	3	2	5	9	1	10	3	2	5
千葉	29	14	43	23	5	28	19	7	26	24	6	30
千葉大医学部	3	0	3	2	1	3	2	3	5	4		4
国公立医学部	6	10	16	6	11	17	9	14	23	7	9	16
その他	16	28	44	22	10	32	21	6	27	25	24	49
国公立大学合計	69	64	133	75	44	119	72	31	103	61	47	108

上記の旧帝大とは北海道大・東北大・名古屋大・阪大・九州大

【私立大学】

大学名	16年度			17年度			18年度			19年度		
	現役	浪人	合計	現役	浪人	合計	現役	浪人	合計	現役	浪人	合計
早稲田	40	41	81	52	31	83	67	26	93	34	30	64
慶應	24	11	35	20	17	37	27	15	42	25	23	48
上智	19	11	30	32	16	48	32	7	39	17	11	28
東京理科	55	44	99	70	56	126	100	43	143	101	44	145
早慶上智理科大合計	138	107	245	174	120	294	226	91	317	177	108	285
私立医学部	17	18	35	14	26	40	22	33	55	22	5	27
私立歯学部	7	5	12	1	13	14	6	4	10	5	2	7
私立薬学部	47	65	112	67	28	95	52	51	103	77	13	90
私立医歯薬合計	71	88	159	82	67	149	80	88	168	104	20	124

平成 19 年度入試 大学等合格者・進学者数

【国公立大学】

Table of national/public university admission statistics. Columns include University Name, Department, and counts for qualified applicants and admitted students.

【私立大学】

Table of private university admission statistics. Columns include University Name, Department, and counts for qualified applicants and admitted students.

Table of national/public university admission statistics (continued). Columns include University Name, Department, and counts for qualified applicants and admitted students.

Table of national/public university admission statistics (continued). Columns include University Name, Department, and counts for qualified applicants and admitted students.

Table of national/public university admission statistics (continued). Columns include University Name, Department, and counts for qualified applicants and admitted students.

新入会員を迎えて

同窓会は、この三月、三三三九名の新しい仲間を迎えました。新会員の希望に燃えたメッセージを紹介します。

暖

かい初夏の風を受け、山々は春に比べ一層青く彩られます。時折降る雨のしずくの青葉に光るその姿は、木々の命の輝きを象徴しているかのようです。

今年、私たち五十三期生は、大志を抱きながら、東邦高校を卒業いたしました。

東邦での学校生活を送る中で培ったものは学力のみならず、人間性、社会性にも及び、これらの大切さは、卒業後の今、改めて実感しております。東邦に来て本当によかった。

こんな言葉が、自信をもって言えるというのは、本当に幸せなことだと思います。

さて、今現在、世界は多くの問題を抱えてしまっています。

この中には、地球上の全生命の存亡に関わるものも数多くあります。

早急にこれらの諸問題を解決せねばもう手遅れになる可能性もあり、そういった意味では、私たちは、地球の今

後を決める「運命の世代」に生きていると言えます。

人類の起こした問題を克服し、全生命の更なる発展を促すにあたって、私たちは文理系、学部、学科を問わず、この上なく素晴らしい東邦の教育を礎に、将来大きな活躍ができるものと確信しております。

明るい未来に向け、私たちは今まで以上に努力を重ね、日々邁進していきたいと思えます。

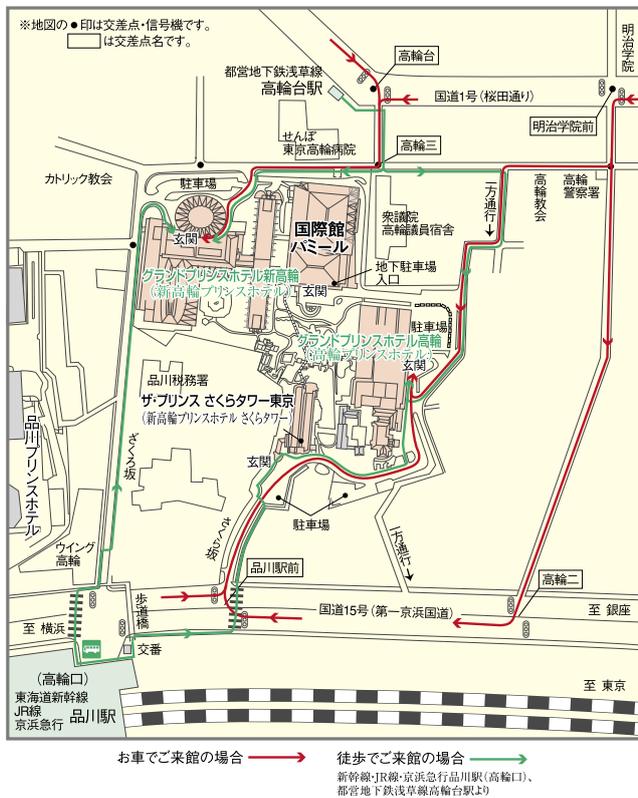
安田 惇

編集後記

今回の会報では、「同窓生のページ」をボリュームアップしました。ご意見、ご感想を同窓会事務局までお寄せ下さい。

(会報ならしの編集委員会)

会場案内



同窓会事務局より

事務局担当理事 御喜 和
18期生母校教員

- (1) 同窓会事務局がセミナー館2階へ移動しました
- (2) パート事務員の方の同窓会事務局での執務時間
水曜日 9:30 ~ 14:30
土曜日 9:30 ~ 14:30

同窓会へのお問い合わせは、なるべくこの時間帯にお願いします

直通電話 047-472-1160

* FAX 番号は電話番号と同じです

- (3) 緊急の連絡に関して
上記の執務時間以外は、同窓会室への電話連絡はできません
緊急のお問い合わせは学校代表
047-472-8191 にお電話いただき、「同窓会関係教員」を呼び出してください
- (4) ホームページ等に関して

URL <http://www.dosokai.org>

E-mail tohojh_dousokai@yahoo.co.jp